

五ヶ瀬町立三ヶ所小学校

児童数：54名 学級数：5クラス URL：<https://www.miyazaki-c.ed.jp/sangasho-e/>

<テーマ> 多様性を認め合い、自他共に大切に作る児童の育成
～ 対話を重視した人権感覚を高める教育活動を通して ～

本校の特色ある取組

1 児童の人権感覚を高める人権教育

(1) 人権に関する放送及び人権コーナーの設置

毎週月曜日、給食時の放送を利用し、児童が作成した人権作文や人権啓発資料「ファミリーふれあい」から選んだ人権作文の紹介を行った。放送後、児童玄関に設置した人権コーナーに感想を掲示した。また、寄せられた感想は、再び放送で紹介することで、対話生まれるよう工夫した。感想だけではなく、行事ごとにコメントを募集し、児童間をつなげることも行った。数多くの手紙が寄せられるようになり、返事のやりとりをすることで対話ができる人権コーナーとなった。



【人権コーナー】

(2) ピア・サポーターの育成

本年度、ピア・サポートの研修を受けたことから、ピア・サポーターから思いやりをもって支え合う人間関係を育み広めることとした。3年生1名、4年生1名、5年生5名の希望者が、全11回のプログラムを修了した。修了後は、自分が取り組むピア・サポートの内容を決め、実施することができた。

2 地域・家庭・学校が共に行う人権教育

(1) 人権に関する全校一斉授業

本校は、10月にオープンスクールを実施しており、様々な年齢層が集まる。そこで、このオープンスクールで地域・家庭・全校児童を対象に、様々な価値観に触れながら人権について考える授業を実施した。【オープンスクールでの話し合い】



まず、本年度から施行された「こども基本法」についての動画を使用しながら説明した。

その後、「人権教育ハンドブック-小学校編-」（作成：宮崎県教育委員会）に掲載されている「身の回りの色とことば」を用いて身近なことから固定的な価値観があることに気付かせ、考えたことを伝えあった。

(2) 人権通信「さんりんしゃ」の発行

人権に関する情報や学校での人権活動を発信し、周知するために、毎月人権通信「さんりんしゃ」を発行した。「さんりんしゃ」を発行することで、保護者が人権について考えたことを学校に返信するなど、家庭と学校がつながることができ、人権教育について共通理解することができた。

3 学校の教職員の人権感覚を高める研修

夏季休業中は、県教育庁人権同和教育課から研修に来ていただき、人権の基本的な考え方から人権教育を意識した授業の在り方、学級経営などについて学ぶことができた。また、冬季休業中は、児童理解を深めるためにジグザグコンパスの牧野泰子さんを招き、不登校の実態や特別支援教育について研修することができた。

成果と課題

- 計画的に人権に関する学習が行われ、常に対話を通しながら人権について考える環境をつくることができた。また、地域・家庭・学校が共に人権について考えているということ意識することができた。
- 今後は、さらに児童数の減少が予想されるため、地域と共に人権について考えていくことや交流をしながら多様な意見に触れることが必要となってくる。担当職員が替わっても地域・家庭・学校が連携しながら継続して取り組むことが課題である。
- 今後は、ピア・サポートを各学級で取り組むことができるように研修を深めていきたい。